

会 報

編集後記

●宇田川前会長のあとを引き継いで会長になるとはつゆ知らず、5月に会報の編集を引き受けました。前会長が会報にふさわしい原稿を集めておいて下さったお陰で、面白く纏めることが出来ました。従って今回は前会長との合作と言うことになります。恩師と会員の近況も多く掲載させていただきました。お読みになって、次第に遠ざかっていく小学生時代が、一時でも身近なものに感じていただければと思っております。

●小山先生の「恕の心を忘れずに」は、私も初めて接するお話で共感を覚えました。自分の利益を優先させることばかりが横行している当世において、小学校を巣立っていく子供さんばかりでなく、大人も心して傾聴すべきお話だと思います。

●土屋さんと志甫さんからは大変興味ある寄稿を頂戴しました。同窓会活動から郷土史研究、音楽鑑賞などの年齢を超えた文化活動が育っていくことを大いに期待します。

●本誌はパソコンで編集したもので、「一太郎9」を使ってみました。世の中には便利な道具が登場したもので、昔だったら労力と時間は大変なことになりそうだと、「ガリ版」で半世紀前に苦勞した化石人は、楽しみながら会報を作りました。

●今後も同じ様な方法で会報を編集していくつもりです。パソコンに興味のある方のボランティアとしての参画を期待しております。是非事務局の方にご連絡を。歓迎します。

●本号から会報の装いを一新してみました。ご感想、ご意見などをお寄せいただければ幸いです。6号は来年の3月頃から編集をはじめるつもりです。それまでに同期会便りなどの原稿をご用意下さい。
(会長・下田 修記)

No.5

平成 11 年度

西田小学校同窓会

目 次

西田小学校同窓会会則	1
平成 11 年度役員	3
会長あいさつ	下田 修 4
特別寄稿	
恕の心を忘れずに	小山 昌身 5
会員寄稿	
善福寺川	土屋 忠夫 7
蓄音器礼讃	志甫 哲夫 10
同期会だより	
25 期会	12
6 期、6 年 1 組クラス会	13
恩師の近況	14
会員の近況	17
ニュース掲示板	
川元千明さんのソプラノリサイタル	19
余公主子先生の「古希を祝う会」	20
西田小学校 UP-TO-DATE	21
同窓会からのお知らせとお願い	22
平成 10 年度会計報告	23
事務局の動き	23
西田小学校年譜抜粋	24
編集後記	表 4

西田小学校同窓会会則

- 第 1 条 (名称)
本会は西田小学校同窓会と称する。
- 第 2 条 (事務所)
本会は事務所を西田小学校に置く。
- 第 3 条 (目的)
本会は会員相互の親睦を深め、かつ西田小学校の発展に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 (事業)
本会は前条の目的を達するため、次の事業を行う。
1. 会員名簿の整備とその管理。
2. 会報の発行。
3. 講演会、談話会、懇親会その他の集会の開催。
4. 前各号のほか、本会の目的を達成するために必要な事項。
- 第 5 条 (会員)
本会の会員は次の二種とする。
1. 正会員 西田小学校卒業生及びこれに準ずるもの。
2. 特別会員 正会員以外の西田小学校職員及び旧職員。
但し西田小学校の現任校長は、本会の名誉会長に推戴する。
- 第 6 条 (会費)
正会員は終身会費として 1,000 円を納めるものとする。
- 第 7 条 (役員)
本会に次の役員を置く。
1. 会長 1 名
2. 副会長 2 名
3. 常務理事 8 名以内
4. 理事 若干名
5. 監事 1 名
- 第 8 条 (役員の任務)
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、予め定めた順位により会務を代行する。
3. 常務理事ならびに理事は会長を補佐し、それぞれの会務を分掌する。
4. 監事は会務を監査する。
- 第 9 条 (役員の選出)
本会の役員は正会員の中から次の要領により選出する。
1. 会長・副会長 役員会の決定による。
○ 2. 常務理事・理事・監事 会長の委嘱による。

第10条 (役員の任期)

1. 役員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。
- 2. 役員が任期中に退任しようとするときは、役員会の承認を必要とする。後任の補充は前条の定めるところによる。
3. 補充された役員の任期は、前任者の残余期間とする。
4. 役員の改選は6月に行う。

第11条 (役員会)

1. 役員会は会長、副会長、常務理事、理事及び監事を以て構成する。
2. 役員会は会長が召集する。
3. 役員会は役員の過半数の出席(委任状を含む)を以て成立する。
4. 役員会の議長は会長がこれに当たる。
5. 役員会は本会の会務に関する事項について審議し決定する。
6. 役員会で議決を必要とする場合は、出席役員の過半数の賛成を必要とし、賛否同数の場合は議長がこれを決定する。

第12条 (総会)

1. 総会は役員会が必要と認めたとき開催する。
2. 総会の議長は会長がこれに当たる。

第13条 (会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第14条 (運営資金)

本会の運営のための経費は会費のほか寄付金その他の収入を以てこれに当てる。

第15条 (積立金)

第4条の事業のために、特別の積み立てを行うことができる。

第16条 (会則の変更)

本会の会則を変更しようとするときは、役員会の議決を経て会長がこれを定める。

第17条 (細則)

この会則に定めるものの他、本会の運営に必要な事項については、細則として役員会の議決を経て会長がこれを定める。

付則

1. 本会則は平成4年6月1日より施行する。
1. 本会則は平成11年7月1日に改正、施行する。

平成11年度西田小学校同窓会役員

会 長	下田 修(1期)		
副 会 長	田村晋一郎(2期)	矢代 捷(9期)	
常務理事	山城 和徳(6期)	宮崎 浩(6期)	中村 昭(7期)
	渋谷 好重(8期)	柏木 謙治(9期)	宇田川茂之(15期)
	上野万佐子(21期)		
理 事	志甫 哲夫(1期)	神山 英子(1期)	和田 恵子(1期)
	土屋 忠夫(3期)	宇賀神スミ子(4期)	荻野 弘子(5期)
	西野喜久子(5期)	高橋優香子(11期)	
監 事	秋山 幹雄(2期)		

事務局連絡先

C/O 〒206-0024 東京都多摩市諏訪 1-22-7
下田 修
TEL/FAX 042(374)0432

会長あいさつ

会長 下田 修(1期)

この度図らずも同窓会の会長をお引き受けすることになりました。どうかよろしく願いいたします。

西田小学校は昭和17年(1942年)に設立され、平成14年には創立60周年を迎えます。卒業生の総数は間もなく一万人に達しようとしています。同窓会が設立されたのは新しく、母校の創立50周年の年、すなわち平成4年のことであります。従いまして同窓会と致しましては、未だ創世記にあると申し上げても過言ではないと思います。しかしながら50年の空白を埋めるべく名簿の整備などの基盤づくりに情熱を傾注された初代会長の故野口洋介氏(2期)、第二代会長の宇田川允敏氏(3期)ならびに役員諸兄弟のご尽力により、6年間で千数百人を擁する組織にまで発展してまいりました。とは申しまして、卒業生の総数から見れば大変不十分なことは言うまでもありません。同窓会の基礎は第一に会員を確定することだと思えます。今後ともこの努力は怠りなく続けていかなければなりません。同窓生各位のご協力を心からお願いいたします。

さて、最近よく「小学校の同窓会なんてくだらない」「小学校の同窓会は何の役に立つの」という言葉を耳にします。50年前に米国から洪水のごとく流入してきたプラグマチズム(実用主義)の皮相部分に毒されてしまった人達にとっては、小学校の同窓会は極めて退屈なものに思えるのでしょう。しかしながら、少なくとも小学校の同窓会に関しては、プラグマチズムが教えるところのコスト・エフェクト(費用対効果)の原則で成り立っているものではありません。この辺りが関の力で隙があれば実利に結びつけようと虎視眈々と狙っている人達が多い大学の同窓会などとは全く違うところです。先生はお元気なのかしら？よく喧嘩をしたあいつは今何をしているのかな？初恋のあの人はもう20年も会っていないけど…などと現在の自分を基点として、時たま小学生時代を振り返る心のゆとりが、実は小学校の同窓会を支えていく大切な力なのだと私は思っております。しかし誰でも毎日小学生時代のことを思い出しているわけではありません。そこで同窓会としては何をすればよいのかと言うことになります。私は同窓会として会員の皆様には是非提供しなければならないものは、心のゆとりと共に時たま小学生時代を覗き垣間見ることが出来る「小さな窓」だと思えます。この窓から新しい絆が育ったり、自己の再発見があったりすれば大変結構なことだと思っております。

ところでこの「小さな窓」をどのように用意するのかが問題です。私と致しましては、この役目を果たしてくれると期待できる「会報」を、会員各位の心のゆとりを頼りに更に充実させ、同窓会発展の梃子にしたいと考えております。皆様方のご理解とご支援を心からお願いいたします。

特別寄稿

恕の心を忘れずに (平成10年度卒業式ではなむけの訓話)

西田小学校・校長 小山 昌身

本日は、ご来賓の皆様、保護者の皆様には、公私何かとご多用のところ西田小学校の卒業式にご臨席を賜り誠にありがとうございます。高いところから恐縮ではございますが、厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様には、お子さまの晴れのご卒業を心からお祝い申し上げます。

さて只今、百十九名の皆さんに本校の第五十六回卒業生として卒業証書をお渡しいたしました。この卒業証書には、「小学校の全課程を修了したことを証する」と書かれております。この意味は、「六年間のすべての勉強をやり終えたことを認めます」ということであります。この六年間、楽しいことばかりではなかったと思いますが、皆さんは一つ一つ見事にハードルを乗り越えてきました。その証が卒業証書なのです。

ご卒業、本当におめでとうございます。今、卒業証書をしっかりと手にしている姿は、とても素晴らしい。心も体も立派に成長を遂げた皆さんを本校の卒業生としてお送り出来ることを大変誇りに思います。

さて、皆さんには月曜日の朝会のお話をしてきました。今日は、卒業のはなむけとして、最後のお話をさせていただきたいと思えます。

それでは、これから言う三つの漢字を頭の中に思い浮かべて下さい。まず「心」という文字、次に「口」、そして「女」。思い浮かべられましたか。

それでは今度は、この三つの文字を組み合わせ、一つの漢字にして下さい。さあ、どんな文字が出来るでしょうか。

いろいろ組み合わせが考えられると思いますが、漢字として成り立つのは一文字だけのようです。女偏に口で如とし、その下に心を付けて、つまりこれ(「恕」)です。

それでは何と読むのでしょうか。この文字は、「如」と「心」の形成で、上の部分が音を表して、ジョと読みます下の部分が意味を表していますが、それでは、この漢字「恕」の意味は何でしょうか。心に関係のあることはわかりますね。

その意味について、二つお話をしたいと思えます。先ず一つ目。

この「恕」という言葉は、中国の孔子の書、論語の中にでています。それは、子貢という孔子の弟子の一人が、「先生、人間として一生守るべきことを一言で表すよい言葉があったら教えてください」と質問をした話としてです。その時、孔子は「大変難しい質問ですね」としばらく考えて、「それは恕という言葉で

善福寺川という名前だけを残して、まったく違うものになってしまった。悲しいことは悲しい、長い川の歴史を僅かの期間に変えてしまった人の手に愕然とする。然しここは思い直して良い方に考えるしかあるまい。昔は土手の道も細くて草深く滑りやすく、とても川岸を散歩することは出来なかったが、今は川岸を何キロも歩けるではないか、いいこともあるのではないかと自らに言い聞かせている。あとはコンクリートの下に埋められてしまった故郷の歴史をもう一度掘り起こせばよいと思うようになった。この地域で歴史に直接触れられる所はもう神社仏閣まわりか、川まわりしかない。コンクリートの川を見ながら、昔の景色を想い、そこに見える歴史のかけらを探索する最後の世代が我々なのだから、こまかいことでも見落とさぬようにしたいし、忘れぬように記録もしていきたいものだと思っている。同窓会の有志がこんなことで小さなグループを作り、調査をしたり、文章を書いたり出来たら、これも同窓会の効用だと思うのだが、どうだろうか。皆の意見を聞きたいものだ。

その2 天保用水路一

天保用水路はこの地に残る貴重な史実である。これは水不足に悩んでいた中野、高円寺、馬橋、の三村に、善福寺川の水を流すために人工的に掘られた水路であった。用水路は二つあって、一つは天保十一年用水路、もう一つは天保十二年用水路と呼ばれた。天保十二年は 1842 年だから今から 157 年前に造られたことになる。用水の水の取り口は荻窪団地の西側、西田端橋の 50 メートルほど上流の所にあつたとされている。最初に造られた十一年水路は、その水の取り口から 5 メートル幅の川となって田端神社の台地の下を半周して成宗の弁天池に向かっていったようだ。然し川獺（かわうそ）が土手に穴を掘ったりして水がうまく流れず、大変に苦労したことが記録にのこされている。已む無く別ルートで天保十二年用水路が掘られたらしい。

私の子供の頃、十一年水路と思われる堀は随所に川の形でまだ残っていた。善福寺川から分流し田端神社までの間の五メートル幅の草深い川は私達の魚取りの絶好の場所であった。大型の鯉や鯔を釣ったり、流し針で鰻を捕ったりした。ここでは本当によく遊んだ。川は今埋められて、その上はベルト状の子供公園として残されている。荻窪あたりでは、昔川のあった所は道路か公園になっていることが多いので、私は何ヶ所かで、今は埋められて無くなっている川を思い出すことができる。

天保十二年水路は善福寺川より西田たんぼの中を東に向かって直線で横断し、私の家のある台地の下を人工トンネルで抜けて台地の反対側にある成宗の弁天池に向かっていったと言う。日本では、ずっと昔から城を築く際の土木技術の一部として堀やトンネルを掘る技術が発達していたので、この程度の工事はそれほど難しいものでなかったのかも知れない。残された文献によればどちらの水路も一年以内に完成している。私が子供の頃、西田たんぼの真ん中付近に、周囲の田んぼとは全く違って、稲も作らず、小川でもない 2 メートル幅の真っ

直ぐな湿地帯が善福寺川から東に走っていた。田んぼの畦道の小川で魚すくいをしていて、全く利用されていない、魚もいない、飛び越えるには幅があり過ぎる、川とも言えないこのベルト状の湿地帯は邪魔な存在であった。そうかと云って荒れ放題というわけではなく大きな草などは生えていなかったから誰かが手を入れていたのだろう。多分この土地は誰にも属さぬ公共の土地で周りとは区別されていたのだと思える。勿論この頃、私は天保用水のことは全く知らなかった。もし、特別扱いされていたと思えるこの一直線の湿地帯が用水跡とすると、その延長線上にあるはずのトンネルの入り口の場所は一点に絞られる。そこと弁天池とを結ぶ線はまさに我が家の傍らを通ることになって、我が家の地下何メートルかにトンネルが今も残っている筈なのだ。それから私の興味は天保用水に釘付けになっていて、これを裏付ける情報を何とかして得たいものだと思っている。これからはさらに追求したいので、何か知っておられる方にめぐりあいたいものだ。今は荻窪団地の地面の下にこんな話もあったことを記録に残しておきたい気持ちもある。

同窓会は西田小学校の創立 50 周年記念を契機に誕生した。学校からは記念誌として「わたしたちの西田」が発行された。この 13 ページに明治の頃の地名と題して地図があり、そこに、この二つの天保用水路が載っている。西田の 50 周年は 1992 年で、私はまだ川周りを歩くことを始めていなかったの、その時はあまり気にもしなかった。その後「わたしたちの西田」を見直して、学校でもだれかが天保用水に興味をもっていたことを知り本当に嬉しかった。然しいつ頃この用水のことを知ったのか、なにか知ったのか思い出そうとしたが出てこない。つい最近では他の仕事を始めて再び忙しくなってしまう、善福寺川まわりの探索がおろそかになっているので、早く再開して資料の整理でもしたらまた思い出すかもしれない。

土屋 忠夫さんのプロフィール

昭和 8 年 5 月 21 日 杉並区西田町一丁目（現在の荻窪三丁目）生まれ 66 才、双子座。血液型は A 型。西田小、都立十中、都立西高、慶應義塾大学工学部を経て三菱商事（株）に勤務。関係会社の社長などを務めた後、平成 9 年に 40 年の会社生活を終え、平成 10 年から仲間頼まれて今までの仕事と全く関係のない合成樹脂の業界団体で事務局長として環境ホルモン問題を担当中。ここではホームページの責任者も兼務している。興味のある方はどうぞ一見を。アドレスは <<http://www.plycarbo.gr.jp>> 会社生活では、延べ 11 年間ニューヨーク（米国）とデュッセルドルフ（ドイツ）で駐在員生活を送った。趣味はゴルフ（ハンデ 15）、旅行、郷土史研究。善福寺川まわりの史実などを研究する仲間の会を作りたいと燃えている。興味のある方は下記に連絡を。
〒167-0051 杉並区荻窪 3-4-12 Tel 03(3398)8585
Eメール: to-be-tsutiya@m2.people.or.jp

蓄音器礼讃

志甫 哲夫(1期)

今やレコードは CD の時代である。知人が今の子供は LP を知らないと言っているが、となると私のように昔の蓄音器(電蓄に非ず)で SP 盤を愛聴している手合いは、化石人の類に見られるかもしれない。ここで注釈すると、SP とは Standard Playing の略で、70 年ほど前それ迄不統一だったレコードの回転数を、1 分間 78 回転に統一し、それを規格とした事から命名されたのだ。因みに 45 回転の EP は Extended Play の、又 33・1/3 回転の LP は Long Playing の略である。

しかし私に言わせると、洋の東西、ジャンルを問わず、録音を通して音楽の醍醐味を心底教えてくれる名手は、圧倒的に SP レコードの時代つまり 1900 年頃から 1950 年代までに輩出していたのだし、そのレコード再生は今の優秀なオーディオ機器によるよりも、電気回路のない昔の蓄音器による方が、彼らの芸術の真髄がより深く伝わってくるのである。音が暖かく艶と深みがあり、生々しい臨場感まで覚える事があって、そこいらが再生音域の狭さ、音の分離の甘さ、針による摩擦音と言った欠点を補って余りあるところだ。私が使っている蓄音器は——本当は蘇音器と命名すべきだった——通称クレデンザと言う 1928 年米国ビクター社製大型スタンド箱型のものと、1935 年頃の英国 E・M・ジーン社製大型ラッパ突出式のものと 2 台である。夫々 10 年以上前に専門店から買い入れた。

蓄音器は簡単に言えば、レコードの溝をトレースした針の振動を、サウンドボックスの振動板が空気の波動(音波)に変え、それをラッパ(箱型の場合には箱の中に折り込まれている)が大きな音響にするという仕組みである。私の物は何れも製作後 60~70 年経っている骨董品だが、“良い仕事”をしてあるから全然狂いを生じていない。

さて話をレコードに移そう。日本全国で SP 盤愛好者がどの位居るか、業者によれば 5 千人位かと言う。又その内蓄音器党は千人位かなと言う。何とも少数派の趣味の世界である。しかし SP 盤そのものは結構大量に残っている。内外中古レコード業者や骨董品屋で入手できるし、他人から譲り受ける機会も間々ある。

私の場合クラシック、ポピュラー、流行歌、童謡、邦楽、著名人の音声と幅広く集めてきたから 5 千枚位ある。名演奏家の物は大部分揃った。名前を挙げるときりが無いけれど、歌手のカルーソー、シャリアピン、ゲルハルト、ヴァイオリンのクライスラー、ティボー、チェロのカザルス、弦楽四重奏のカペー・カルテット、ピアノのフィッシャー等は何時聴いても素晴らしい。

流行歌では美空ひばりが群を抜いた名歌手だから、大方揃えている。プレスリーやビリー・ホリデイ、イヴ・モンタン、ピアフ等巧い人は沢山いる。著名人は少ないが、トルストイ、キング・ジョージ 5 世、東郷元帥、乃木大将、高橋是清、坪内逍遙等の音声レコードを持っている。

こうしたレコードを一人で楽しむだけでなく、時々知人を招んで自宅でミニ SP コンサートを催している。5~6 人招ぶのが精一杯だが、ワインやつまみを持ち寄ってもらって楽しくやる。ある時期外国人が来た。マリアン・アンダーソンの黒人霊歌に拍手した米人女性、アーサー・キットのウシュクダラに大喜びしたトルコ青年、エリザベート・シューマンのシューベルトに涙したカナダ青年が記憶に残る。英会話は苦手だが、音楽を楽しむのに殆ど言葉は要らなかった。

ところで趣味の世界はいずれも同じと思うが、音楽という趣味を通じて付き合いの輪が広がっていくのが又楽しい。会社をリタイアしてから、上は 90 才の紳士から 20 才台のご婦人まで、新しい友達が何人もできた。我が国唯一の季刊専門誌「SP レコード」に、時々寄稿させて貰っているが、同誌を通して未だ見ぬペンフレンドも出来ている。年金生活者になっても、だから全然淋しくない。若い人に趣味を持つことをお勧めする由縁である。それからこの専門誌への寄稿のために、いろいろ調べる事が自分の知的欲求の充足になっている。法制化で話題の「君が代」であるが、その誕生からの経過を調べ始めたところ、「君が代」のあの荘重なメロディーの真の作曲者は、奥 好義(オク・ヨシイサ)と言う人で、西田小学校・校歌の作曲者である芝 祐久氏の大伯父に当たる楽人だったことが分かった。しかも児童用唱歌として作ったのだ。

話を戻そう。「蓄音器は楽器と同じだ。音楽を奏でてくれるから」とか「蓄音器の音を古酒の味に喩えるならば、CD の音は合成酒だ」と言った人が居る。多分に蓄音器最良の言い方だが、頷ける所がある。

結局、「百聞」は一見ならぬ「一聞」に如かずと言いたい。一聞してみたい方があればお申し越し下さい。喜んで音のご馳走を差し上げましょう。

志甫 哲夫さんのプロフィール

昭和 6 年 8 月 7 日生まれ富山県出身、67 才 獅子座、血液型は B 型。
都立十中、富山県立神通中、旧制富山高、東大経済学部を経て(株)協栄生命保険に勤務。平成 8 年役員を退任するまで 41 年間在籍。趣味は屋内外を問わず多岐にわたり、旧制高校時代は野球部に在籍していた。麻雀は勿論のこと、昭和 40 年代にはボウリングにも精を出し、最高スコア 268 をマーク。その後、健康増進のために水泳とスキーにも取り組む。口に入る物で健康維持とガン予防に効果ありと聞けば即座に導入する。この一見多情とも見える積極性は B 型の真骨頂か。しかしなんと言っても趣味の頂点にあるのは、本稿で紹介のあった蓄音器による SP レコードの鑑賞。とにかく道具立て、レコードのコレクションと、これに賭ける情熱は並の愛好家ではない。ライブと紛らう音のご馳走と、彼のご高説に懐きたい向きは是非連絡を。

連絡先 : 152-0003 東京都目黒区津文谷 6-3-22 TEL/FAX 03(3712)7341

同期会だより

25期会(1968年3月卒)

去る平成11年1月30日、中野サンプラザにおいて、我々25期の同期会を開催した。卒業後実に30年が経過、スコッチウイスキーの「バランタイン」だって、最高級グレードに熟成される年月を経ての懐かしい仲間の再会である。実は同期会は今回で2回目、前回は約18年前だったか、優秀な数名の幹事(小生は無関係)の骨折りのお陰で、結構な人数の集まる盛大な会だったと記憶している。「近いうちに又やろう・・・」と言って別れた筈なのに、徒に20年近くの歳月を経てしまったのは、偏に「次回幹事」を選んだ皆の、人を見る目の無さに起因するものである。

それにしても、18年前の名簿に基づき招集する同期会は大変なものである。「ご予約は何名様で・・・？」との問いに「まあ、20人から120人位の間でしょう」などとうそぶく幹事に、会場もいやな客だと思ったにちがいない。

それでも当日は、久保田先生、仲瀬先生、伊代先生にお越しいただき(佐治先生は風邪でご欠席となり残念!)、小学生の時にはちっとも気が付かなかった魅力的な女性軍と、実社会では結構偉そうな顔していいような男性軍あわせて43人が集う楽しい会合となった。(人数が少ないのは、偏に集客努力を怠った幹事の怠慢の所為である)

あまりの変貌ぶりに名前が分からない人がいるとまずいとのお婆心から、先生以外の出席者には名札が用意されていたが、一部の例外を除いて杞憂だったようである。中には、遠く兵庫や大阪から駆けつけてくれた人もおり、カラオケの1曲も歌ってもらわないと間尺に合わないかと思われたが、会場は総じて厳かな雰囲気の中、ひたすら旧交を温めあう懇談で、時の経つのも物食べるのも忘れたかの様子(実際、料理は随分余っていた・・・)のうちに、2時間はあっという間に過ぎ去った感じであった。

皆、名残が尽きないのか、殆ど参加者全員が2次会(なんと喫茶店)に流れる展開となり、そのあとも枝別れしつつ3次会、4次会と学生並の元気で夜は更けてゆき、やっとお開きになったのは、夜中の2時頃であったように記憶する。他のグループでも、横浜へ帰るのに、東京駅で終電に間に合わなかった女性もいたとのこと。2次会の成立も危ぶんでいた小生の予測は完全にはずれ、年齢不相応に体力勝負の展開となったのは、懐かしさとうれしさの賜物か、はたまた昔の仲間に出て童心に帰った為なのか定かではない。

とまれ小学生時代、虚弱体質でならした小生にとっては、いささかくたびれる、しかし思い出に残る同期会となった。今回、都合が付かず残念ながら欠席した人も大勢(?)いた筈であり、又住所不明者も少しずつ解明されつつある

為、近い将来、今度は一所懸命集客に励み、改めて盛大な同期会を開こうと決意を固めたものである。数カ月を経た今日現在、この決意もいささか怪しく成りつつあるのは当然の成り行きである。

(鮎川 克平記)

6期、6年1組クラス会(1949年3月卒)

毎年、春に開催している西田小学校6期、6年1組のクラス会を6月13日の日曜日、荻窪駅の南口にある「味里」で開催した。

男性11名に対し女性が2名の参加予定で、いささか彩りに欠ける予感を持っていたが、集まってみると男女の区別は今更無く、5月29日に他界した北岡輝彦君の冥福を祈った後、イタリアから帰国したばかりの川元さんの土産のスコッチウイスキーを2本空にし、至福の一時を過ごした。

川元さんは、5月26日、イタリア、ナポリのボンペー劇場で400人の聴衆を前にし、振り袖姿で日本古謡と蝶々夫人のアリアを歌い、拍手喝采を浴びたとのこと。

同女史のバイタリティーに刺激され、有志で7月21日、ゴルフコンペを開催する話が纏まり散会。

のどに自信のある4名がこれも恒例になっている「てまり」での二次会に向かった。

参加者：秋山義男、井上三郎、井上正之、小柳津正彦、木村吉広、清水 尚、杉浦和雄、高橋茂典、都築孝夫、矢成基行、山本昌裕、赤根永子、川元千明、大石和男(二次会のみ)

(井上正之記)

恩師の近況

岡田忠七先生 (三鷹市)
40年の教員生活中、西田には12年と最も長く、それに戦中戦後と激動の時期で、私にとっては忘れ得ない学校です。父母の教育熱心と子供たちの優れた素質は、開校以来のことでも誇りとしています。宿直の夜など西田たんぼから聞こえてくる蛙の声など懐かしく、今は夢のまた夢物語でしょう。世は移り前進してやみません。私も昨年米寿を迎え馬齢を重ねて、この7月には89才となります。おかげさまで元気で頑張っています。

佐治照子先生 (杉並区)
1981年杉並第六小学校長を最後に退職。その後全国教育女性連盟常任理事、事務局長、副会長を経て、現在会長を勤めています。国立教育会館306号室に事務所があり、主に女性教師の資質の向上を目指しての教育団体として研修を続けております。全国大会を控え忙しい毎日です。(6月13日記)

久保田恵政先生 (杉並区)
西田を出てから30年以上の歳月が経ち、あの頃の教え子も今年で43才位です。先日、同期会を催して下さり、約20年振りも多くの方々とお会いできて大変うれしく思いました。私は現在私立幼稚園の園長をしておりますが、70才を迎えて、そろそろ終わりにしようかと考えています。西田小同窓会のますますのご発展をお祈りしています。

小崎 佑先生 (杉並区)
紫陽花。現在、区内の永福町南小学校に勤務しております。(校長歴7年目)西田小では、公私にわたってお世話になり、心から感謝申し上げております。会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。(西田小第15代校長)

岸上 修先生 (杉並区)
お陰様で元気で過ごしております。西田小学校では13年間もお世話になりました。老骨に鞭打って相も変わらず年寄サッカー・野球・テニスに汗を流しております。西田の丘を子供達と走り回ったのが昨日のここのように思い出されます。家庭菜園にも興味があって、毎年夏野菜づくりを楽しんでいます。同窓会の発展を願ってやみません。

三井知夫先生 (杉並区)
教諭として勤務したのは西田小学校が最後で、しかも西沢二郎校長の強力な指導力のもと、学校カウンセリング・自主協学習などの研究を推進したので、特に印象深い学校です。その後、教育委員会勤務10年、小学校長2校8年で退職しました。以来、山岸義一校長の文化女子大学付属杉並中・高等学校に勤務。山岸校長亡き後、平成4年から校長として私学経営に当たっています。港区で幼稚園長も兼務したので、幼・小・中・高4校種の長を経験し、感慨深いものがあります。元気で残る期間頑張ります。

舟生 清先生 (杉並区)
西田小学校同窓会の会長さんはじめ皆様、ご苦労様です。昭和47年4月から51年3月まで西田小でお世話に

なりました。区内で一番児童数の多かったこと。休み時間などよく遊んだこと。健康学園を併設したこと。そんなことを今、なつかしく思い出します。皆さんお元気で。

安里成子先生 (山梨県北巨摩郡)
八ヶ岳南麓に移り住んで11年になります。庭の木々も大きくなり、周囲の林にとけ込む様になりました。6月は梅の実の収穫の時で、友人達と緑の実を採り、さまざまな漬物、飲み物、調味料などを作ります。会の皆様のご活躍を祈っております。

弓場重和先生 (立川市)
退職後7年、杉並区立科学教育センターに指導員として勤めさせていたでいています。杉並の教育にかかわっていますが、少しでも子供たちのお役に立てればと思っています。西田旧職員の会(西田会)の会長を4年続けましたが、今年の総会では27名が参加し、その席で会長を愛甲武元校長にバトンタッチしました。また、開催を今後隔年とし同窓会と交互になるようにしました。西田小同窓会の益々のご発展を祈っています。

青木茂展先生 (杉並区)
早いもので古希を迎えて一年が過ぎました。今年5月に転居して、妻と二人きりの生活「転がる石にコケは生えない」の諺のように、お互い自分の人生を愉しむ時間を持ちながら過ごしています。又、流れ去る月日を振り返り、人生と言う旅を21世紀の夜明けまで体感できれば最高ではないかと思ひます。そして、「もう」の2文字…「まだ」の2文字…これが人生にたえても貴重ではないか

と考えます。ご苦労様です。よろしくお願ひします。
新住所:168-0082 杉並区久我山 3-9-2

山本 宏先生 (杉並区)
孔雀(くじゃく)のオス一羽メス二羽を西田小学校で貰い受けたのは何年前になるか。卵を数多く生んだが自らは抱卵せず、孵卵器に入れたが飼育部員の不注意で落としてしまい、とうとう一羽の雛も得ることの出来なかったことを想い出す。西荻南の居住者から区役所が貰い、更に教育委員会を経て西田にたどり着いたものだ。その写真は、今も校長室の前の廊下にある。

愛甲 武先生 (小金井市)
西田小学校創立50周年の式典・記念の諸行事には同窓会の皆様から多大のご支援を頂きました。お礼申し上げます。さて、私、西田小より桃井第一小学校に転勤し平成9年に退職致しました。現在、杉並区の済美教育研究所に勤めております。仕事は、学級崩壊等が起こらないよう学校を訪問し、相談や支援を行っています。ごころうさまで。よろしくお願ひします。

粕谷高子先生 (杉並区)
昭和21年から3年半、新卒時代お世話になった西田校は忘れることはできません。50年前の思い出が今でも鮮明によみがえってまいります。当時お世話になった先生方、ご父兄の皆様には感謝でいっぱいです。退職して17年になりました。お陰様で元氣です。踊りをしたり、散歩会に参加したり、少しでも老化防止にと続けております。踊りの仲間等、それぞれのふれ合いを大切にしたい

人生であるよう願っております。
6月29日から主人と北欧3ヶ国8日間の旅に出発する予定です。

濱 真喜男先生 (小金井市)
開校時の 飯山、上飯坂、川野、高畑、安里、山岸、柴田諸先生に感謝し、集団疎開を共にし、焼け跡から立ち上がった同窓会の皆さんのお働きを思います。私は昨年「共に育つ——福祉を願う教育」500頁を出版、目下「共に育つ——思い出と願い」を執筆中です。

大西陸子先生 (杉並区)
風薫る6月、幹事の皆様ご苦労様です。私は昭和52年3月教員生活最後の暮を西田でおりました。一生忘れることは出来ません。今人生80年代に突入し、老化と戦いつつ教え子達の温かい手のぬくもりをひしひしと感じている毎日です。

大島信夫先生 (府中市)
私が西田小学校を去ったのが昭和39年。あれから30年余が過ぎました。古希を迎えて何年か経ちましたが、お陰で元気です。最初の教え子も還暦を迎えました。この人たちに負けないようにと歩会員の会員になり、小学校の同級生と楽しく歩いています。

大森敏男先生 (小金井市)
私が西田小に勤務したのは、昭和35年から43年までの8年間でした。早いものであれから30年がたちます。私も古希を迎え、今は健康第一と考え、市主催の成人大学講座に参加したり、時々ゴルフを楽しんだりしております。西田小同窓会の益々の発展を祈願しています。

木下茂子先生 (杉並区)
私が西田校に伺ったのは昭和22年の春でした。当時、家庭科の先生がおられなかったのが家庭科専科でお仲間入り出来ました。男子には木工、女子には和裁をしました。木工は男の先生の応援を得、ちりとり、和裁は体育用に黒ブルマーを作りました。翌年は今の21期生を6年間受け持ちました。宮坂、大島、余公の諸先生で6年間とても楽しい日々を過ごしました。現在宮坂先生は他界されましたが、このお薬書を出すときも、3人で長い電話で近況を語りました。みんなみんな元気で今度お目にかかる予定です。

村田美枝子先生 (小平市)
今、地元小平市の中学校で「心の教室」相談員をしています。中学生はどの子も忙しい毎日を送っていますが、僅かの休み時間、相談室に顔を見せに来て「よし、元気もーらい」と教室に帰っていくそんな日々を送っています。私が相談員として関わってあげられるのも、西田小在勤中に機会をいただいた済美研究所の教育相談の研修が基礎になっているのです。中学生に元気をもらっています。うれしいことです。

余公主子先生 (保谷市)
教員かけ出しの西田小時代。39年度卒業生(6-4)に、昨年11月に古希を祝ってもらいました。減点先生だったにもかかわらず。その温かい心に励まされ、今も絵を描く楽しみが続いています。とても有り難いことです。卒業生の皆さんは、この難しい時代、社会の中堅として外にも内にもご苦労が多いことと存じます。健康でご活躍ご発展をお祈り申し上げます。

会員の近況

嶋滝(斉藤)哈爾子 (11期・神戸市)
震災からはや4年を経過。その間我が家にもいろいろなことがございましたが、ようやく平穏な日々となって参りました。

井口正雄 (8期・東大和市)
難病で入院していたもので遅れました。幹事の皆様ありがとうございます。日下部先生はお元気でしょうか。

永田(野口)澄子 (7期・世田谷区)
私は昭和19年4月に入学しました。受け持ちは柏先生でした。2年まで在籍して転校しましたので西田小学校は卒業していません。同窓会会員として認められるのか疑っています。(勿論、私達は同窓会会員と思っています—会長談)

永崎(中村)翠 (4期・横浜市)
2年生までしか在籍していないのですが、よろしく願います。

大森達雄 (10期・多摩市)
同窓会会報拝見しました。ご苦労感謝いたします。同期の武井功君に先日連絡を取りましたところ、平成10年3月に急逝されました。会報の寄付の欄に彼の名前を見つけたので連絡したのですが。

三浦靖子 (5期・世田谷区)
残暑お見舞い申し上げます。ご丁寧に会報にゴム印のことをのせていただきありがとうございます。(同窓会のゴム印を作っていただきました—会長談)

小池(中島)弘子 (4期・座間市)
幹事の皆様いつも大変お世話様でございます。ご無沙汰のみいたしております。中道寺の寺子屋で上飯坂先生からご指導を受けたこと、桃井第二の仮校舎で濱先生に俳句を習ったことなど思い出しております。次回に濱先生のお元気な姿と、皆様様にお会いしたいと思っております。

中村 昭 (7期・杉並区)
亡くなられた同期の宮川凡子さんの跡を引き継いで役員?となりました。宇田川前会長から渡された会員リストをパソコンに打ち込む仕事をしています。地元の生まれですが、父の勤務の関係で西田小学校在籍は1年2ヶ月でした。しかし学校には何となく愛着があり微力ながらお手伝いをしています。今後も宜しく。

萩野(加藤)弘子 (5期・杉並区)
5月30日「むさしのフルトオーケストラ」という団体の定期演奏会が三鷹のある会場で開かれました。指導員のお一人に5期の青木(三浦)浩子さんが居られ、演奏もなさいました。ポピュラーな曲が組み込まれ、毎回同窓生は楽しませていただいております。

杉原(山口)素子 (12期・新座市)
昭和30年の卒業時、岸上修(先生)学級でした。現在56歳、大学の教員をしています。息子二人を育てているので学生には必然的に寛大です。小学校2年の時、担任の中山まさ子先生が産休になり、教頭の高島知止先生が時折教壇に立って下さいました。そして子どもたちの話を聴いては「なるほど、なるほど」と応じてくれ姿を、とても大切なことであると今ご

ろ思い出しています。

花崎 翠 (3期・新宿区)
5月8日川元千明女史のリサイタルを聞いた。難曲のランメルモールのルチアの熱唱が素晴らしい。その後5月末にウィーン・ミュンヘンへ音楽を聞きにいった。カレーラス、ドミンゴ等の歌を聞いた。ミュンヘンの国立歌劇場では世界一のソプラノ・グルベローヴァのルチアの熱唱を聞いた。その後の夕食時には彼女が隣席で夕食をはじめたのには驚いた。何れ又来日するとのことだった。帰途は米国の娘の家に滞在、6月中旬に帰国した。

樋口登喜雄 (5期・港区)
毎度ご連絡を戴き恐縮いたしております。宇田川前会長、角倉兄から書面を頂き、同窓会の大凡のことは承知しております、お手伝いもしなければと思っておりますが、小生昨年来一寸体調を崩しており役員会の通知を頂戴しても仲々出席出来ません。通院等の事情もあり、お役に立つことが出来ず、申し訳なく思っております。今回下田先輩の新会長御就任をお祝い申し上げますと共に、恐縮ですが小生の役員辞任をご承認くださいます様お願い申し上げます。諸兄姉に宜しくお伝えください。

矢萩ふく子 (22期・杉並区)
住所が変わりました。

Ms. Fukuko Yahagi-Harris
320 East 18th Street
New York, NY 10003
U.S.A.

志甫 博 (5期・川崎市)
6月に北京に行きましたら、半年ほどのうちに、又ダイナミックに変化する大都会でした。秋の建国50周年を前にあちこち工事中で、私の好きな天安門一故宮に入ることが出来ませんでした。そこからほど近い繁華街の王府井の長安街沿いに醜悪なガラス張りの高層ビル(香港資本)が10棟ほどできあがる寸前で、悲しい思いをしました。北京の人にも同じ思いだそうです。

下田 修 (1期・多摩市)
お陰様で元気です。久しぶりに会った友人から、サッカーはまだやっているの、などと聞かれて吃驚するのですが、そんな体力は残念ながらありません。この会報が皆様のお手元に届く頃には、恐ろしいことに68歳になってしまいます。永年勤めた(財)電力中央研究所からは、1996年に完全に足を洗いました。その後、国際商業会議所(ICC)の調停の鑑定人を引き受け、時として連夜FAXでヨーロッパとやりとりをするという忙しいこともあります。サラリーマンの晩年に国際関係の仕事に携わったお陰で、パソコンを泥鰌的に覚えましたが、結構役に立っています。同窓会の会報づくりにまで活用しようとは思っていませんでしたが、ところで、1期の同期会は恩師が他界されてしまった為に求心力を失い目下休眠中です。同期の志甫君とは、もう少し頑張って「古希を祝う同期会」でもやるかと相談しているところです。この会報をお読みになった1期の皆様方、2001年をお忘れなく、そして呉々もご自愛下さいますようお願いいたします。

ニュース掲示板

川元千明さん(6期)のソプラノリサイタル

川元さんから平成11年5月8日の浜離宮朝日ホールでのソプラノリサイタルのご案内とご招待を頂戴し、家内や知人を誘い聴きに参りました。

川元千明さん(旧姓矢代)略歴

学習院女子高等学校卒
東京芸術大学音楽学部声楽科卒
浅野千鶴子、毛利 清に師事
第6回全日本ソリストコンテスト入賞
1996年カザルスホールで受賞披露リサイタル
1997年銀座王子ホールでリサイタル
1998年セレストホールでリサイタル
木下記念日本歌曲研究会会員
元学習院女子高等科講師

歌われたのは、原語によるロシア民謡、フランス歌曲、イタリア歌曲のアリア、そして日本歌曲と多岐にわたっており、レパートリーの広さが窺われました。

川元さんは結婚後歌をやめて長い年月のブランクがありながら、歌への情熱だし難くレッスンを再開、数年前からリサイタルを始められたそうですが、ブランクのお陰で保たれた艶のある美声と、ホールいっぱい響く豊かな声量(勿論マイクなし)に圧倒されました。又、歌い廻しの中にこめられた深い情感

が伝わってきました。

曲目の中では、珍しいラヴェルのシェエラザードに見られるように、フランス歌曲への意欲的な取り組みが目玉されました。これは芸大在学時代に、日本洋学史に残るソプラノの浅野千鶴子女史(1904~1991)に師事しフランス歌曲を勉強された成果を示したものでありましょう。

プログラム終了後、何人もの方々に交じり、同窓会有志を代表して宇田川会長が花束を贈呈して、文字通り花を添えられました。アンコールは「浜辺の歌」と「椰子の実」でした。これら盛り沢山の歌曲を歌いきられた川元さんのスタミナに驚嘆しました。同窓のみなさん、これから是非川元さんを応援してあげてください。

同窓会関係では小山校長先生、粕谷高子先生、宇田川会長ご夫妻、3期の花崎、4期の大橋、宇賀神義妹、5期の内田、加納、西野、田島夫妻、6期の荒井、井上、高橋、山本、8期の渋谷、13期の野口並人、21期の宇田、上野(以上敬称略)と大勢の方がおいでになりました。

次ページに当日のプログラムを載せておきました。ご覧下さい。

(1期 志甫哲夫記)

プログラム

第1部

アリヤビエフ 夜鳴きうぐいす
ラヴェル シェエラザード
I アジア II 魅惑の笛 III つれない人
ドビュッシー 華やかなうたげ
I ひそやかに II あやつり人形
III 月の光
ドニゼッティ
ランメルモールのルチア第3幕より
「狂乱の場」

第2部

山田耕筰 さくらさくら、この道、
からたちの花、かやの木山、赤とんぼ、
鐘が鳴ります。
三善 晃 聖三線玻璃
I いのり II 曼陀羅 III 青空に
IV ほんねん
ヴェルディ
椿姫第1幕より
あゝそは彼の人か〜花より花へ

余公 主子先生の「古希を祝う会」

平成10年11月23日は余公先生の70才のお誕生日でした。そこで集まれる人たちだけでささやかな祝宴「古希を祝う会」を催しました。

祝宴は荻窪の「本むら庵」で11月21日午後3時から始まりました。1月のクラス会の時には行方が分からなかった東城信彦君、渡辺裕之君、また富山から東京に転居した川北明美さん、3連休でこのために帰ってきた中野幹雄君、そして林貞敬君と横川いつ子さんが再会を果たしました。総勢17名で、二次会には更に3名が加わりました。

お互いに子供時代を共にしているというのは素敵です。

遠慮はいらないから暖まっておいきよ
皆でいろいろ囲んで手をかざして
おしゃべりして、心まで暖まって
又会おうぜと言って手を挙げて別れる

そんな暖かな集まりでした。

余公先生からは「ありがとう、とっても楽しかったわ。みんなから元気もらったわ。これから公募展に出す絵に、もらった元気で取り組みます」とのお言葉。この先生のお言葉は、小学生時代に先生の手や胸や喉を煩わせた我々には何よりでした。
(21期 上野万佐子記)

西田小学校 UP-TO-DATE

児童数 : 541人 (平成11年6月1日現在)

卒業生総数 : 9826人 (平成10年度まで)

先生 校長: 小山 昌身 教頭: 滝瀬 晴美
教諭: 高倉 慶子 原口 尚子 増井あや子 (1年担任)
山川 政志 遠藤 結花 相沢実味子 (2年担任)
増田 潔 矢野 緑 浅野 慶子 (3年担任)
寺崎 礼子 林 久美子 (4年担任)
加藤 弘史 川越 理恵 福留 修一 (5年担任)
大澤 晴久 佐藤あかし 萩原 俊一 (6年担任)
岡 千恵 (音楽) 小田和宏 (図工) 鈴木早美 (家庭科)

平成11年度西田小カレンダー

〈1学期〉	〈2学期〉	〈3学期〉
4/6 始業式・入学式	9/1 始業式・引き渡し訓練	1/11 始業式
4/20 遠足(4年)	9/6~8 移動教室(6年)	1/21~28 校内書き初め展
4/22 遠足(5年)	9/10 水泳指導終了	2/18 遠足(6年)
4/23 離任式	9/28 西田まつり	3/3 6年生を送る会
4/27 遠足(3年)	10/19 児童総会	3/23 終了式
4/30 遠足(2年)	10/27 連合運動会	3/24 卒業式
5/1 校内演劇鑑賞教室	11/2 社会科見学(4年)	
5/7 遠足(1年)	11/5~6 展覧会	
5/30 運動会	11/9 生活科見学(4年)	
6/1 開校記念日	11/12 生活科見学(1年)	
6/21 水泳指導開始	11/17~19 移動教室(5年)	
7/19 修業式	11/25 社会科見学(3年)	
	11/26 区連合音楽会(5年)	
	12/2 社会科見学(5年)	
	12/9 社会科見学(6年)	
	12/24 終業式	

最近の給食献立から

5月10日(月) 鮭チャーハン・野沢菜のごま炒め・中華スープ・牛乳。
11日(火) セサミトースト・トマトシチュー・果物・牛乳。
12日(水) わかめうどん・ポテト・たこ揚げ・果物・牛乳。
13日(木) 中華ちまき・ワタンスープ・牛乳。
14日(金) フレンチトースト・ポトフ・果物・牛乳。

同窓会からのお知らせとお願い

I. ご寄付への御礼

今年も皆様方から多額のご寄付を頂戴いたしました。会報の充実、名簿の整備などに有効に活用させていただきます。ここにご芳名を会報に掲載し、お礼に代えさせていただきます。本当に有り難う御座いました。

(敬称略)

恩師：大日向 和、金光佳男、青木茂展、青木和代、粕谷 博、粕谷高子、大塚朝子
 1期：志南哲夫、長谷川博一 2期：佐藤敏夫、山田曉子 3期：中部恵美子、原 交子、阿見照美、矢内花簪 4期：杉浦孝之助、野村一男、中沢伸 永瀬佳子、小池弘子、漆畑久子、青木貴美子、永崎 翠、吉田治生、高橋偉泰 5期：志南 博、広瀬武司、翁村佳男、三浦靖子 6期：川元千明、野村幸男 7期：田端京子、花井景彦、浅野純子、関根揚子 8期：宇治川多嘉子、倉本英子、斉藤藤春、横田嘉美 10期：大森達雄、樋口悠治、室伏 宣、河西宏和、花谷紀美子、小川裕康 11期：菊池皓子、若林順子、泉 久子、鳴滝哈爾子、12期：杉原素子、野口香代子 13期：大川京声、渡辺浩志、東城 巖、渡辺正子 14期：山崎素哉 15期：塚原環子 18期：島田真理子 19期：川上千恵子 22期：矢萩ふく子 50期：望月雄介 52期：田畑泰明、斉藤直子、長田華子、宇田川貴司、辻 昌宏 53期：早房敏幸 56期：徳岡壮平、村山翔太

その他役員有志(特別役員会賛金)

II. 同窓会名簿について

同窓会の名簿は同窓の皆様方が仲間の動向、恩師の最近のご様子などを確かめる上で、また同窓会活動を進めていく上での貴重なデータベースであることは申すまでもありません。しかしながら、皆様方のお役に立てるべくこれを印刷して発行いたしますと、必ず会員以外の手にも渡り、商品取引、不動産投資、特定宗教の勧誘ばかりでなく高額な紳士録の押し売りなどに悪用されて迷惑を被っている例は大学、高校、中学の同窓会名簿に関して数多く聞かれます。

このような状況を踏まえて、当同窓会と致しましては名簿の整備を重要な仕事の一つと位置づけて今後も鋭意努力はしていくものの、印刷配布することは差し控えていただき、代わって会員からの請求により特定の期、あるいは範囲のコピーを提供するサービスに切り替えたいと存じますので悪しからずご了承いただきたいと存じます。

西田小学校は、やがて卒業生に数が 10,000 人になろうとしています。その大半は春秋に富んだ人生に正に立ち向かっている方たちだと思います。従いまして名簿の正確性を常時維持していくことは至難の業であるといえます。進学、就職、転勤、結婚などにより住所が変わるようなことがありましたら、事務局の方に是非ご連絡いただき、名簿の整備にご協力下さいますようお願いいたします。

平成 10 年度会計報告 (H10.4.1~H11.3.31)

(単位：円)

【収入の部】

・平成 9 年度よりの繰越金	1, 762, 651
・会費・寄付金	809, 000
・懇親会余剰金	18, 594
・懇親会バザー収入	56, 500
・預貯金利子	2, 609

合 計： 2, 649, 354

【支出の部】

・郵便電信費	454, 970
・印刷費	177, 428
・文具雑品費	30, 938
・郵便為替手数料等	29, 875
・次年度繰越金	1, 956, 143

合 計： 2, 649, 354

【資産明細】

・預貯金	1, 925, 380
・現金	30, 763

合 計： 1, 956, 143

会計担当理事 柏木謙治(9期)
 監 事 秋山幹雄(2期)

【事務局の動き】

・学校行事への招待(何れも宇田川会長が出席)
 大運動会(H10.6.7), 学芸会(H10.11.7), 卒業式(H11.3.25), 入学式(H11.4.6)

・会報 No.4 の発行(H10.6.30)

・役員会(何れも「西田ゆうゆうハウス」で開催)
 第 45 回(H10.7.26), 第 46 回(H11.1.30), 第 47 回(H11.5.9), 第 48 回(H11.6.6)
 役員選考委員会(H11.6.9)

西田小学校年譜抜粋(1942～1998)

(敬称略)

年	おもな出来事	校長先生	児童数
1942年	6月、東京市西田国民学校として開校	山極 武利	493
1943年			612
1944年	3月、第一回卒業式挙行。 8月、長野県小県郡別所村へ学童疎開		128
1945年	5月25日、夜半の空襲により校舎全焼 11月、桃井第二小学校を借りて授業再開		233
1946年		宮下 恒寿	586
1947年	7月、第一次復旧仮校舎落成。平屋8教室。		659
1948年	6月、第二次復旧仮校舎落成。平屋3教室。	伊藤 晃	693
1949年			727
1950年	6月、増築校舎落成。2階建4教室。	浅沼 茂雄	763
1951年	10月、運動場拡張		824
1952年	12月、増築校舎落成(南校舎)。2階建6教室。		858
1953年			981
1954年	5月、第一次仮校舎落成(北校舎)。	川野千代松	1116
1955年	2月、増築校舎落成		1271
1956年			1301
1957年			1341
1958年	2月、第二次復旧校舎、増築校舎落成。 3月、校地拡張。	跡部 欣二	1393
1959年			1473
1960年			1415
1961年	4月、都教育委員会より科学センター校と指定。		1291
1962年	6月、創立20周年式典挙行。	西澤 二郎	1225
1963年			1217
1964年			1197
1965年			1223
1966年	2月、「自主協力学習のあり方」で表彰。		1241
1967年	3月、増築校舎落成(鉄筋3階建5教室)。	長谷部勇次	1273
1968年	10月、体育館落成。創立25周年記念式典挙行。		1299
1969年			1348
1970年	3月、第二次鉄筋校舎竣工。 11月、プール竣工。		1355
1971年	3月、第三次鉄筋校舎竣工。		1367
1972年	1月、NY市クイーンズ第33小学校と姉妹提携。 2月、第四次鉄筋校舎竣工。 4月、屋内体育館付属施設竣工。	舟生 清	1372
1973年			1289

年	おもな出来事	校長先生	児童数
1974年			1296
1975年	3月、第五次鉄筋校舎竣工。		1276
1976年		安藤 博	1223
1977年	6月、観察池、流水実験装置完成。		1189
1978年			1279
1979年			1284
1980年	8月、校舎増築工事完成。		1327
1981年		新見 稔	1239
1982年	4月、創立40周年記念式典挙行。	渡辺 雄幸	1233
1983年	2月、構内緑化植樹(610本)。 12月、教育目標改訂。		1166
1984年			1107
1985年	12月、給食室改修工事、暖房FF装置工事。	弓場 重和	1023
1986年			986
1987年	2月、陶芸小屋完成。 3月、環境緑化工事完了。 6月、創立45周年記念集会実施。 11月、構内窓鏡15枚設置。		925
1988年	1月、アスレチック遊具完成。 6月、プールろ過機改修工事。 8月、体育館照明器具改修工事。 9月、校舎窓枠サッシ化工事完了。		855
1989年	3月、25インチ吊り下げ型カラーテレビ導入。 8月、教室等照明器具取り替え。	愛甲 武	808
1990年			748
1991年	6月、生活科教材指導用飼育舎完成。		705
1992年	6月、西田小学校同窓会設立。 9月、体育館改修工事完了。 10月、創立50周年記念集会実施。創立50周年記念式典挙行。第一回同窓会総会開催。		671
1993年	3月、パソコン室設置工事完了。 10月、余裕教室充実工事完了。	小崎 佑	659
1994年	12月、社会教育・生涯学習室設置工事完了。		620
1995年	3月、校庭開放指導員詰所改築工事完了。 4月、生涯学習振興室「西田ゆうゆうハウス」併設開室。		602
1996年	2月、29インチカラーテレビ設置。	小山 昌身	573
1997年			562
1998年	4月、警備機械化工事完了。		569

(注：児童数は各年度末の人数)